

どこを切り取っても、こだわりがある。

年月とともに誇りと愛着が深まっていくデザイン、家族が心地よくふれあえるプラン、次世代の指標となることを目指した「ZEH」仕様の省エネ性能など、家の中身をしっかりとさせれば「快適」は長持ちします。だからこそ「家そのもの」に、「ひと味ちがう、こだわり」とことん詰め込みました。



光と風とあたたかさが、
優しく広がっていくように



A. B. 南面に大開口を設け、爽やかに通り抜ける「光と風の通り道」を設計。2階天井部まで突き抜ける吹抜けと相まって、開放感あふれる空間に。C. D. 家の中心部には家の要とも言える薪ストーブを。家中を暖めるだけでなく、薪の燃える音に耳を澄ませ、ゆらめく炎を囲みだんらんするひとときは、心までやさらぎ、温まります。E. 木の質感とアイロンの美しさにこだわった手すりは、家のアクセントに。



F. 家全体の風の流れを調整し、陽光の「明かりとり」ができる小窓。G. 24時間空気を家全体に循環させ、清潔で健やかな室内環境を維持できる「第1種換気システム」。家中をまんべんなく一定の温度に保てます。

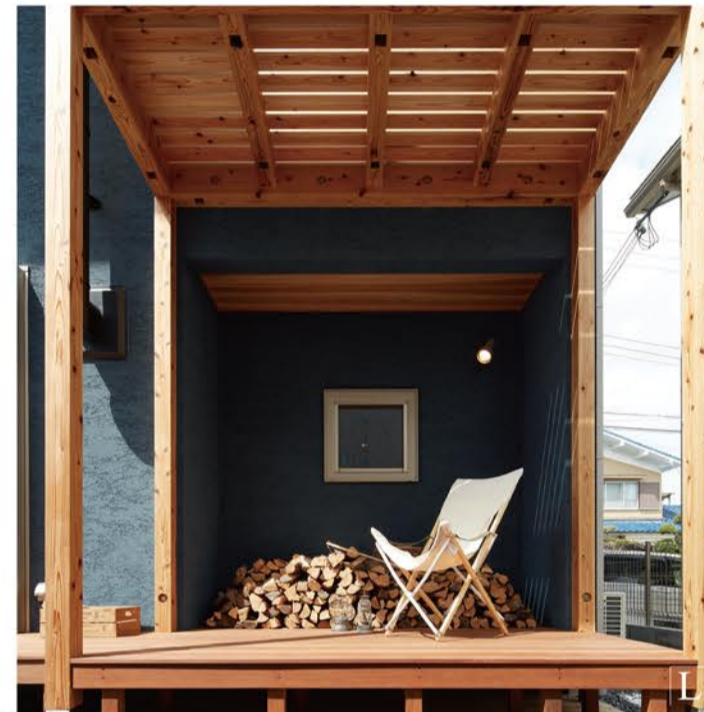


H. I. 家の入り口であり顔にもなる玄関は、外壁に映えながらも主張しすぎない上質でやわらかなデザインで、家族をお出迎え。玄関ホールの収納は一体感のある土間仕様に。

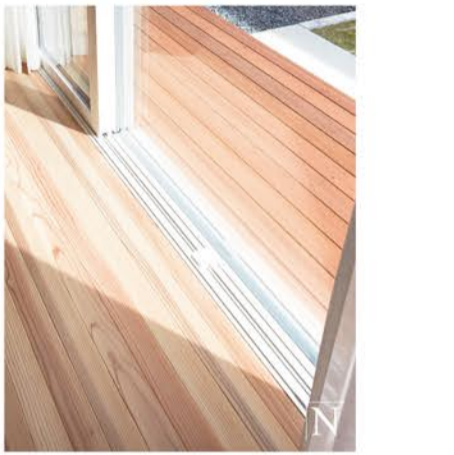


段差の利点を活かして、暮らし心地をさらに高める。

J. K. ダイニングの床を一段上げ、リビングとのゆるやかな境界性を演出。掘りごたつをイメージした奥座敷の雰囲気醸成しました。白の壁に映える、カウンターと造作棚、アンティーク調のペンダントライトも空間のワンポイントに。



L. M. N. 各所に使われる木材は、地産材である十津川産の杉板。その中でもリビングには一枚板を。素足でもあたたかみを感じられる無垢材で、健康にも配慮。O. 和室の小上がり部分には、スライド収納を造作。随所に無駄のないアイデアを採用しています。



P. 家を快適に保つポイントの一つ、庇。一年を通した陽光の射し込み方を緻密にシミュレーション。夏は日差しをさえぎり、冬はあたたかな光を採り込みます。年月とともに変わっていく木の風合いも楽しめます。



Q. R. 深い青を基調とした塗り壁。昼は爽やかな青空に映え、夜はあたたかみと上質感あふれる佇まいを追求。第二のリビングにもなるウッドデッキは、ソトとウチそれぞれの心地よさを繋げる大切な役割として。



ソトとウチがつながる、
心地よさの集大成。